

## 第2節 大学進学までの受験について

### 受験経験（中学受験・高校受験）

中学受験を経験した大学生は全体の18.8%、高校受験率は全体の86.3%であった。中学受験にせよ、高校受験にせよ、受験後の進路は、「第一志望に合格し、進学した」者が最も多く、中学受験経験者の60.8%、高校受験経験者の78.5%が該当していた。

Q

- あなたは中学受験をしましたか。受験をした方は受験結果とその後の進路について、あてはまるもの1つをお選びください。
- あなたは高校受験をしましたか。受験をした方は受験結果とその後の進路について、あてはまるもの1つをお選びください。

現在の大学生は、大学に入学するまでに、どの学校段階で受験を経験し、どのような受験結果となり、その後どのような進路をたどってきたのだろうか。本節では、大学入学までの実態として、それまでに経験した「受験」に焦点を当ててとらえていくこととする。

ここでは、「中学受験・高校受験の経験、および、その後の進路」についてみていく。

まずは、中学受験についてみていこう。図1-2-1は、「中学受験率」を示したグラフである。18.8%の大学生が、中学受験を経験している。

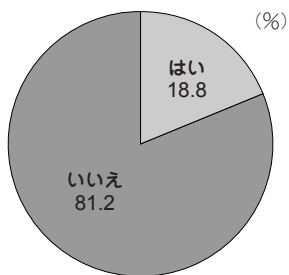
彼らの「中学受験結果とその後の進路（中学受験経験者のみ）」を示したグラフが、図1-2-2である。中学受験をした者のうち、「第一志望に合格し、進学した」が60.8%、「第一志望以外に合格し、進学した」が22.7%という結果であった。

つづいて、高校受験についてみていこう。図1-2-3は、「高校受験率」を示したグラフで

ある。86.3%の大学生が、高校受験を経験している。しかし、「86.3%の大学生しか高校受験を経験していない」という解釈も可能であろう。「いいえ」と回答した13.7%の大学生は、いわゆる「お受験」を経てエスカレーター式に高校（あるいは大学）まで進学した者、中学受験を経て中高一貫校に進学した者など、高校受験を経験することなく大学生になっているのである。近年、「受験の低年齢化」が進んでいると言われており、高校受験を経験しない大学生は、今後ますます増加していくことも予想される。

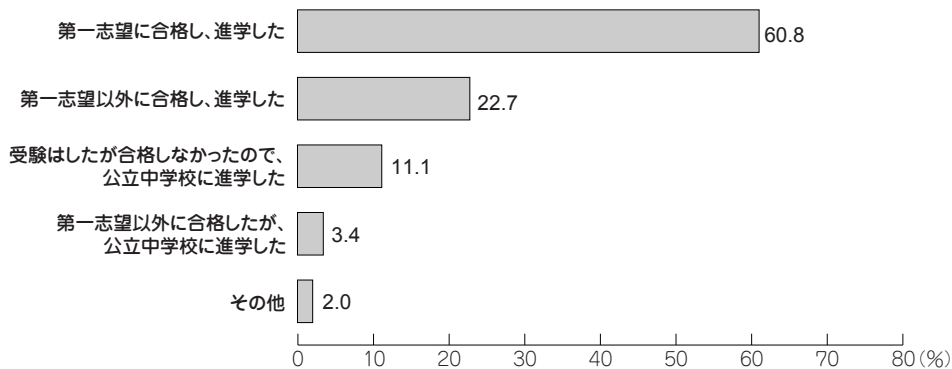
最後に、図1-2-4は、「高校受験結果とその後の進路（高校受験経験者のみ）」を示したグラフである。高校受験をした者のうち、「第一志望に合格し、進学した」が78.5%、「第一志望以外に合格し、進学した」が20.5%という結果であった。中学受験に比べ、高校受験では、受験後の進路として、第一志望校に進学した者が多いことが示されている。

図1-2-1 中学受験率（全体）



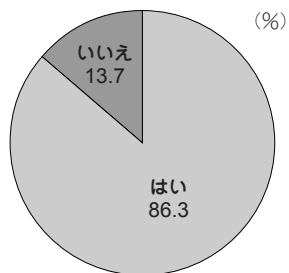
注) サンプル数は4,070名。

図1-2-2 中学受験結果とその後の進路（中学受験経験者のみ）



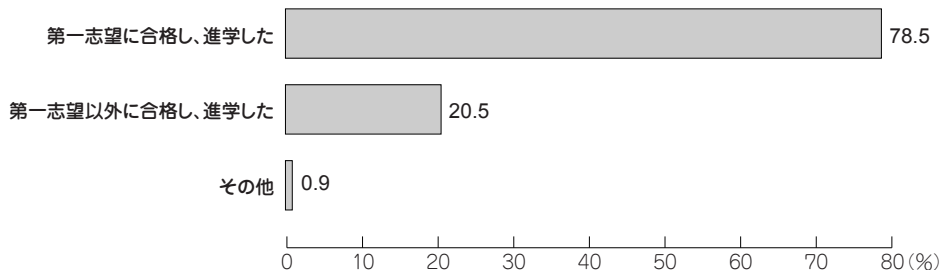
注) サンプル数は766名。

図1-2-3 高校受験率（全体）



注) サンプル数は4,070名。

図1-2-4 高校受験結果とその後の進路（高校受験経験者のみ）



注1) 「第一志望以外に合格したが、進学しなかった」「受験はしたが合格しなかったため、進学しなかった」はきわめて少数であったため、「その他」に含めている。

注2) サンプル数は3,512名。

## 大学進学を意識し始めた時期・受験対策を始めた時期

大学進学を意識し始めた時期は、「高校2年生の頃」(29.5%)が最も多く、次いで「高校3年生の頃」「高校1年生の頃」となっていた。大学受験対策を始めた時期は、全体としては「高校3年生」(55.6%)が過半数を占めていたが、学部系統によって大きな差異もみられた。

Q

- 大学進学を意識し始めたのはいつ頃ですか。あてはまるもの1つをお選びください。
- 大学受験対策を始めたのはいつ頃ですか。

では現在の大学生は、いつ頃から大学進学を意識し、いつ頃から受験対策を始めたのだろうか。ここでは、「大学進学を意識し始めた時期、実際に受験対策を始めた時期」についてとらえていく。

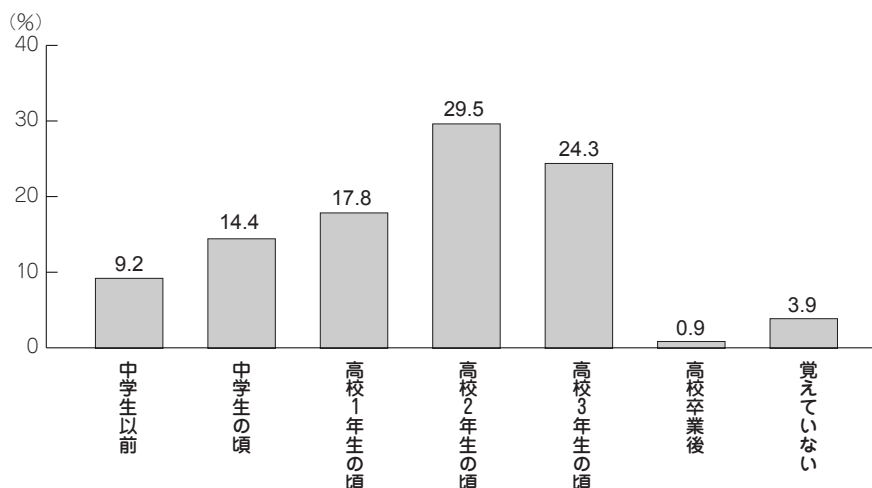
まずは、大学進学を意識し始めた時期についてみていこう。図1-2-5は、「大学進学を意識し始めた時期」を示したグラフである。「高校2年生の頃」が29.5%と最も多く、「高校3年生の頃」(24.3%)、「高校1年生の頃」(17.8%)と続いている。

さらに、大学進学を意識し始めた時期を学部系統別に示した表が、表1-2-1である。「教育」(52.5%)、「保健その他」(51.6%)の学部系統では、「中学生以前」から「高校1年生の頃」までに、過半数の学生が大学進学を意識し始めていたことが示されている。なかでも、医学部

や薬学部を含む「保健その他」では、すでに「中学生以前」の段階で大学進学を意識し始めた者が14.8%にも及んでいる。

つづいて、大学受験対策を始めた時期についてみていこう。図1-2-6は、「大学受験対策を始めた時期」を示したグラフである。「高校1年生」(6.3%)、「高校2年生」(32.7%)に対し、「高校3年生」は55.6%に及ぶ結果となった。その一方、「大学受験対策を始めた時期」を学部系統別に示した表1-2-2の結果からは、「保健その他」「教育」といった「大学進学を意識し始めた時期」の早い学部系統で、「大学受験対策を始めた時期」が「高校2年生」とした回答が全体平均よりも5ポイント以上高い結果が示されており(「保健その他」40.6%、「教育」38.5%)、学習時間の確保にもつながっている\*1。

図1-2-5 大学進学を意識し始めた時期 (全体)



注) サンプル数は4,070名。

\*1 第1章第1節「高校での学習時間」(p.37、表1-1-13)を参照。

以上の結果より、高校入学後に大学進学を意識し始めた大学生が7割以上であったり、大学受験対策にあてた期間が1年未満の大学生も過半数に及ぶ一方、「保健その他」「教育」など職業

との関連が明確な学部系統の大学生は、早期より大学進学を意識し始め、実際に受験対策も早期より始めていたことが明らかである。

表1-2-1 大学進学を意識し始めた時期（全体・学部系統別）

	全体 (4,070)	人文科学 (837)	社会科学 (1,553)	理工 (980)	農水産 (125)	保健その他 (283)	教育 (143)	その他 (149)
中学生以前	9.2	8.6	9.3	7.8	8.8	14.8	11.2	8.7
中学生の頃	14.4	12.9	13.5	14.3	23.2	17.7	19.6	14.1
高校1年生の頃	17.8	20.9	15.8	17.7	16.0	19.1	21.7	18.1
高校2年生の頃	29.5	29.5	29.9	29.0	28.0	28.6	25.9	35.6
高校3年生の頃	24.3	25.2	25.8	26.3	21.6	14.1	17.5	19.5
高校卒業後	0.9	0.2	1.5	0.5	0.8	0.4	0.7	1.3
覚えていない	3.9	2.6	4.2	4.5	1.6	5.3	3.5	2.7

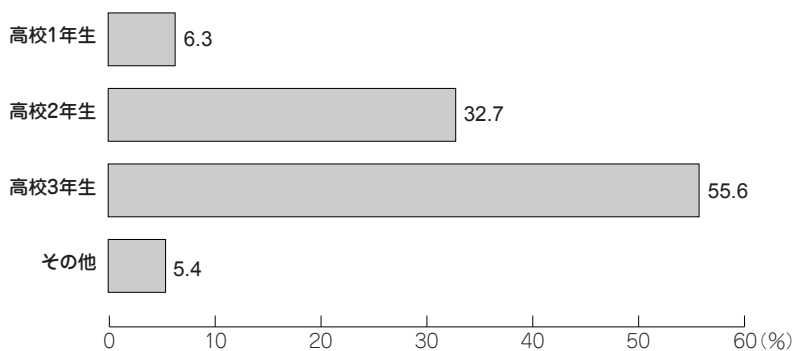
注1) 学部系統の詳細はp.6を参照。

注2) ○は全体よりも5ポイント以上高いものを示す。

注3) —は全体よりも5ポイント以上、   は10ポイント以上低いものを示す。

注4) ( )内はサンプル数。

図1-2-6 大学受験対策を始めた時期（全体）



注) サンプル数は4,070名。

表1-2-2 大学受験対策を始めた時期（全体・学部系統別）

	全体 (4,070)	人文科学 (837)	社会科学 (1,553)	理工 (980)	農水産 (125)	保健その他 (283)	教育 (143)	その他 (149)
高校1年生	6.3	7.8	6.0	5.9	5.6	7.8	3.5	4.7
高校2年生	32.7	31.9	31.4	32.3	32.8	40.6	38.5	32.9
高校3年生	55.6	55.9	55.5	57.6	58.4	48.8	51.7	56.4
その他	5.4	4.4	7.1	4.2	3.2	2.8	6.3	6.0

注1) ○は全体よりも5ポイント以上高いものを示す。

注2) —は全体よりも5ポイント以上低いものを示す。

注3) ( )内はサンプル数。

## 大学受験対策

「受験期の学習時間」の平均は4.5時間であった。しかし、「0時間」(6.1%)、「1時間」(9.0%)など、実質的には受験勉強をしていると思えない回答もみられた。「大学受験対策として取り組んだこと」は、従来型の教科学習が多くみられた一方、「推薦・AO入試」による入学者を中心に、「小論文の準備」「面接の準備」「志望理由書・自己推薦書作成」など、従来型の教科学習とは異なることに対策として取り組んだ者も少なからずみられた。こうした傾向には、学部系統による差異もみられた。

Q

- 受験の追い込み時期のとき、平日に学校での授業以外で、1日平均で何時間くらい勉強していましたか。学習塾や予備校、家庭教師について勉強する時間も含めてください。なお浪人をした方は、現役のときの勉強時間をお答えください。
- 大学受験対策として取り組んだことはどれですか。あてはまるものすべてをお選びください。

少子化の進行と高等教育収容力の維持を背景として、易しくなった大学入試がもたらす「脱受験競争時代」が到来している\*1。また、大学入学者選抜方法も多様化しており、「大学受験対策」の中身も従来とは変容している可能性もあるだろう。ここでは、その実態を探るべく、現在の大学生が取り組んだ「大学受験対策」として、「受験期の学習時間」および「大学受験対策として取り組んだこと」についてとらえていく。

まずは、「受験期の学習時間」についてみていこう。図1-2-7は、「受験期の学習時間」を示したグラフである。平均値は4.5時間であった(詳細は巻末の基礎集計表を参照)。「8時間」「10時間」といった長時間の回答が少なからずみられた一方(それぞれ6.9%、5.4%)、「0時間」「1時間」といった実質的には受験勉強をしていると思えない回答も示された(それぞれ6.1%、9.0%)。

つづいて、「大学受験対策として取り組んだこと」についてみていこう。図1-2-8は、「大学受験対策として取り組んだこと」を複数回答としてたずねた結果である。「センター試験に対応した教科学習」が66.8%と最も多く、「私立大

学入試に対応した教科学習」が43.8%、「国公立二次試験に対応した教科学習」が39.0%と続いている。これらの結果からは、「大学受験対策」の内容は、依然として教科学習中心であることがうかがえる。

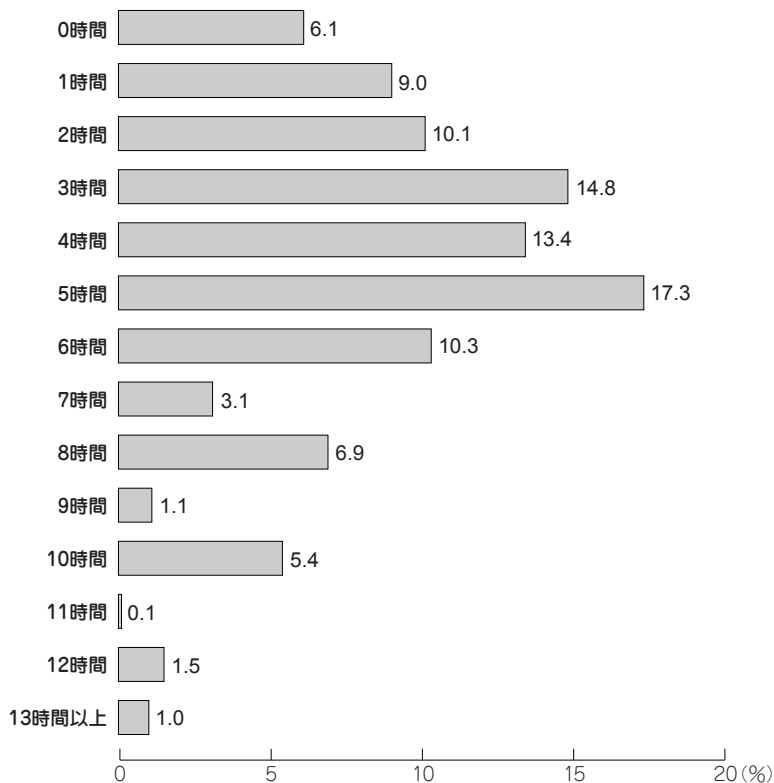
その一方、「小論文の準備」(26.5%)、「面接の準備」(25.7%)、「志望理由書・自己推薦書作成」(21.1%)など、従来型の教科学習中心の「大学受験対策」とは異なる対策に取り組んでいた者も少なからずみられた。

彼らは、どのような受験方法で大学に入学したのだろうか。図1-2-9は、「大学受験対策として取り組んだこと」を入試方式別\*2に示したグラフである。「推薦・AO入試」による大学入学者では、従来型の教科学習よりも、「面接の準備」(62.9%)、「志望理由書・自己推薦書作成」(55.0%)、「小論文の準備」(42.2%)に取り組んだ者のほうが明らかに多い結果となった。入試方式により、「大学受験対策」として取り組む内容が異なることは明らかであり、大学入学者選抜方法の多様化に伴い、「大学受験対策」も多様化していることがみてとれるだろう。

\*1 たとえば、ベネッセ教育研究開発センター『第4回学習基本調査・国内調査報告書・高校生版』(p.14~19、2007年)などを参照。

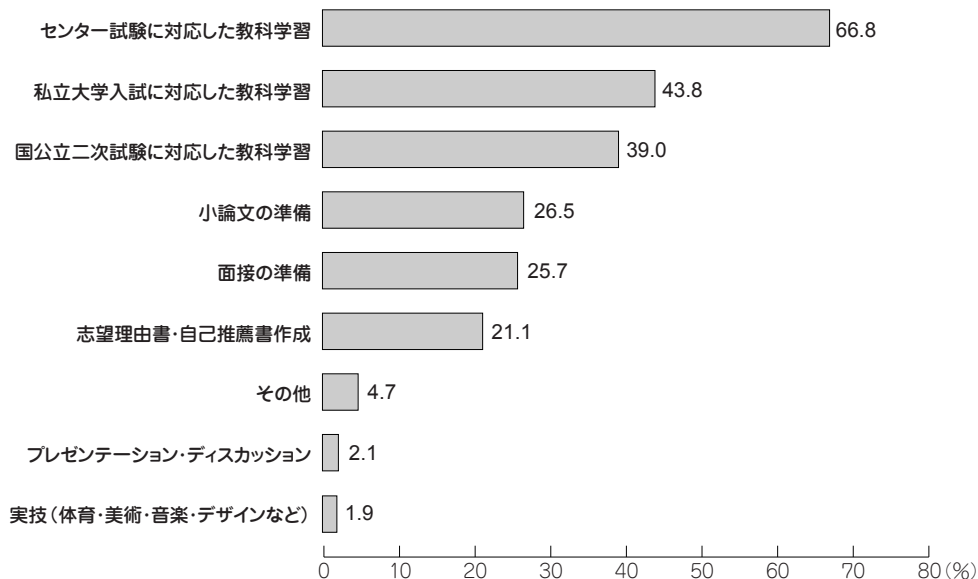
\*2 第1章第2節「大学受験のときの入試方法」(p.52)を参照。

図1-2-7 受験期の学習時間（全体）



注) サンプル数は4,070名。

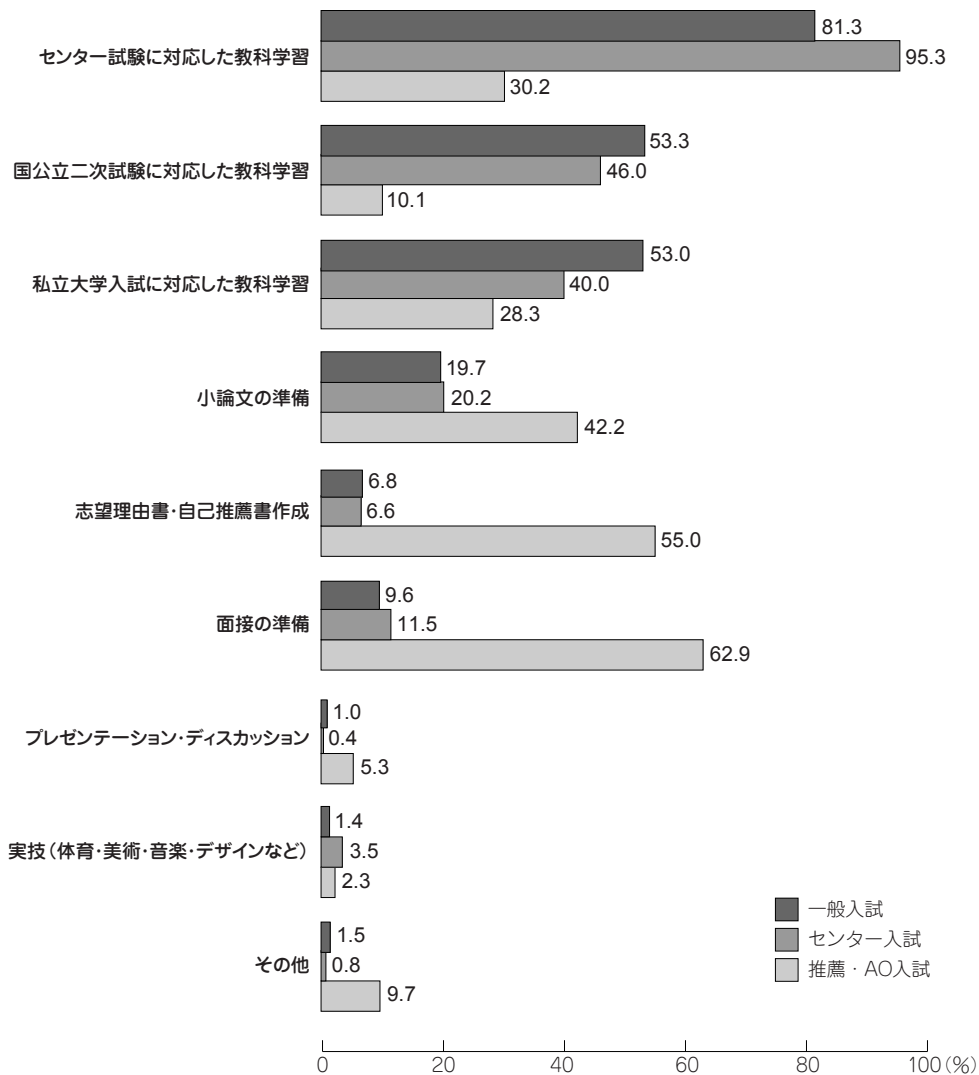
図1-2-8 大学受験対策として取り組んだこと（全体）



注1) 複数回答。

注2) サンプル数は4,070名。

図1-2-9 大学受験対策として取り組んだこと（入試方式別）



注1) 複数回答。

注2) 「推薦・AO入試」には、「推薦入試」「附属高校推薦」「AO入試」を含む。

注3) 入試方式の「帰国生入試」「編入学」「その他」は省略した。

注4) サンプル数は一般入試2,294名、センター入試485名、推薦・AO入試1,154名。

最後に、「大学受験対策として取り組んだこと」を学部系統別に示したのが表1-2-3である。生活科学・芸術・総合などを含む「その他」では、「小論文の準備」(37.6%)、「志望理由書・自己推薦書作成」(34.2%)、「面接の準備」(34.9%)、「実技(体育・美術・音楽・デザインなど)」(10.7%)といった、従来型の教科学習中心の「大学受験対策」とは異なる対策に取り組む比率が、全体平均よりも顕著に高い結果となっていた。

これに対し、「理工」「農水産」「保健その他」といった理系学部系統や「教育」では、「センター試験に対応した教科学習」や「国公立二次試験に対応した教科学習」に取り組む比率が、全体

平均よりも顕著に高い結果となった。なかでも、「国公立二次試験に対応した教科学習」への取り組みは、「理工」(55.0%)、「農水産」(60.0%)、「保健その他」(57.2%)、「教育」(54.5%)のいずれの学部系統でも、全体平均より10ポイント以上高い結果となっており、他の学部系統との二極化が明らかに示されている。さらに、保健衛生・医・歯・薬学部などを含む「保健その他」は、「小論文の準備」(38.9%)、「面接の準備」(46.6%)も全体平均よりも10ポイント以上高く、大学受験対策として多様な準備を強いられており、高校1・2年生のときから複数の学習機会を積極的に利用している\*3 者が目立つ。

表1-2-3 大学受験対策として取り組んだこと(全体・学部系統別)

	全体 (4,070)	人文科学 (837)	社会科学 (1,553)	理工 (980)	農水産 (125)	保健その他 (283)	教育 (143)	その他 (149)
センター試験に対応した教科学習	66.8	63.2	60.4	72.6	84.0	80.6	83.2	59.7
国公立二次試験に対応した教科学習	39.0	29.4	29.4	55.0	60.0	57.2	54.5	20.8
私立大学入試に対応した教科学習	43.8	51.3	50.0	32.6	34.4	43.1	19.6	43.6
小論文の準備	26.5	34.2	27.4	12.9	26.4	38.9	30.8	37.6
志望理由書・自己推薦書作成	21.1	25.7	19.6	16.7	21.6	25.1	17.5	34.2
面接の準備	25.7	27.4	22.2	23.2	20.0	46.6	23.8	34.9
プレゼンテーション・ディスカッション	2.1	2.2	2.3	1.8	2.4	1.8	2.1	2.0
実技(体育・美術・音楽・デザインなど)	1.9	1.7	1.4	0.8	0.0	0.7	10.5	10.7
その他	4.7	4.4	6.2	4.0	1.6	1.1	4.2	4.7

注1) 複数回答。

注2) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。

注3) 〃は全体よりも5ポイント以上、〃は10ポイント以上低いものを示す。

注4) ( )内はサンプル数。

\*3 第1章第1節「授業以外での学習機会」(p.39、表1-1-14)を参照。



## 受験する大学・学部決定の際に重視した点

受験する大学・学部を決める際に重視した点は、「興味のある学問分野があること」が64.8%と最も多かった。つづいて、「入試難易度が自分に合っていること」「自宅から通えること」「入試方式が自分に合っていること」など、自分自身が置かれている現状を重視して決定した者が多く、「先生、親、先輩といった他者のすすめ」を重視して決定した者は少数であった。これらの傾向には、性別や学部系統による差異もみられた。

### Q

受験する大学・学部を決める際に重視した点について、あてはまるものすべてをお選びください。

では、現在の大学生はどのような点を重視して、受験する大学や学部を決定したのだろうか。ここでは、受験する大学・学部を決める際に重視した点についてみていこう。

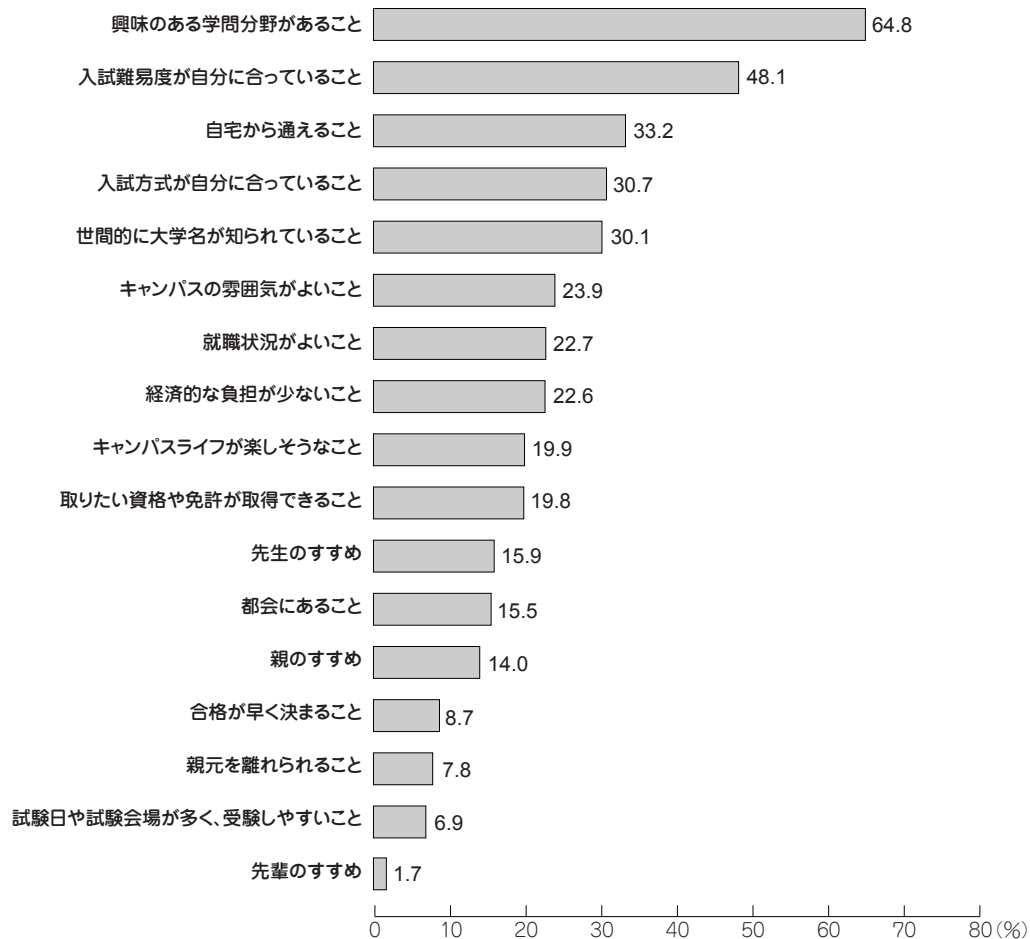
図1-2-10は、受験する大学・学部を決める際に重視した点について、複数回答でたずねた結果を示した。「興味のある学問分野があること」を重視して、受験する大学・学部を決定した者が64.8%と最も多い。つづいて「入試難易度が自分に合っていること」(48.1%)、「自宅から通えること」(33.2%)、「入試方式が自分に合っていること」(30.7%)など、自分自身が置かれている現状を重視して、受験する大学・学部を決定した者が目立っている。他方、「先生のすすめ」「親のすすめ」「先輩のすすめ」といった「他者のすすめ」を重視して、受験する大学・学部を決定した者は少数であることより(それぞれ15.9%、14.0%、1.7%)、現在の大学生は、主体的に自分が置かれた現状をふまえたうえで、受験する大学・学部を決定する傾向にあるといえよう。ただし、入試方式別<sup>\*1</sup>にみると、「推薦・AO入試」による大学入学者では、「先

生のすすめ」で受験する大学・学部を決定した者が22.9%に及んでいる(図1-2-11参照)。

こうした傾向に性差はみられないのだろうか。図1-2-12は、受験する大学・学部を決める際に重視した点について、女子の回答率が高い順に性別で示したグラフである。多くの項目で女子は男子に比べて回答率が高く示されている。なかでも、「興味のある学問分野があること」(女子72.7%>男子59.6%、以下同)、「自宅から通えること」(39.5%>29.1%)、「キャンパスの雰囲気がいよこと」(32.1%>18.5%)、「取りたい資格や免許が取得できること」(27.3%>14.8%)、「親のすすめ」(20.4%>9.6%)などは、女子が男子に比べて明らかに重視する傾向が示された。これに対し、女子に比べて男子の回答率が高い項目は少ないものの、「就職状況がいよこと」(男子22.8%>女子22.6%、以下同)、「親元を離れること」(8.3%>7.2%)、「試験日や試験会場が多く、受験しやすいこと」(7.3%>6.4%)といった点を、男子は女子に比べて重視する傾向が示された。

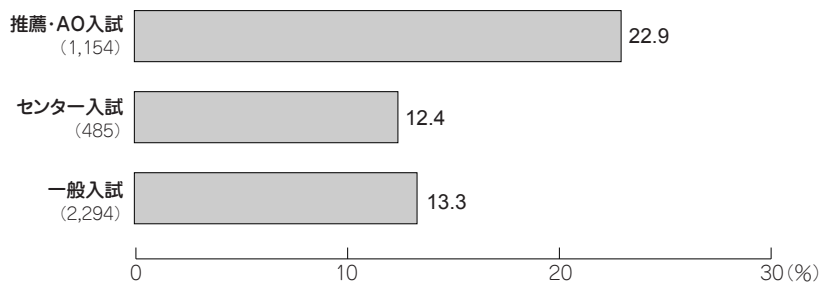
\*1 第1章第2節「大学受験のときの入試方法」(p.52)を参照。

図1-2-10 受験する大学・学部を決める際に重視した点（全体）



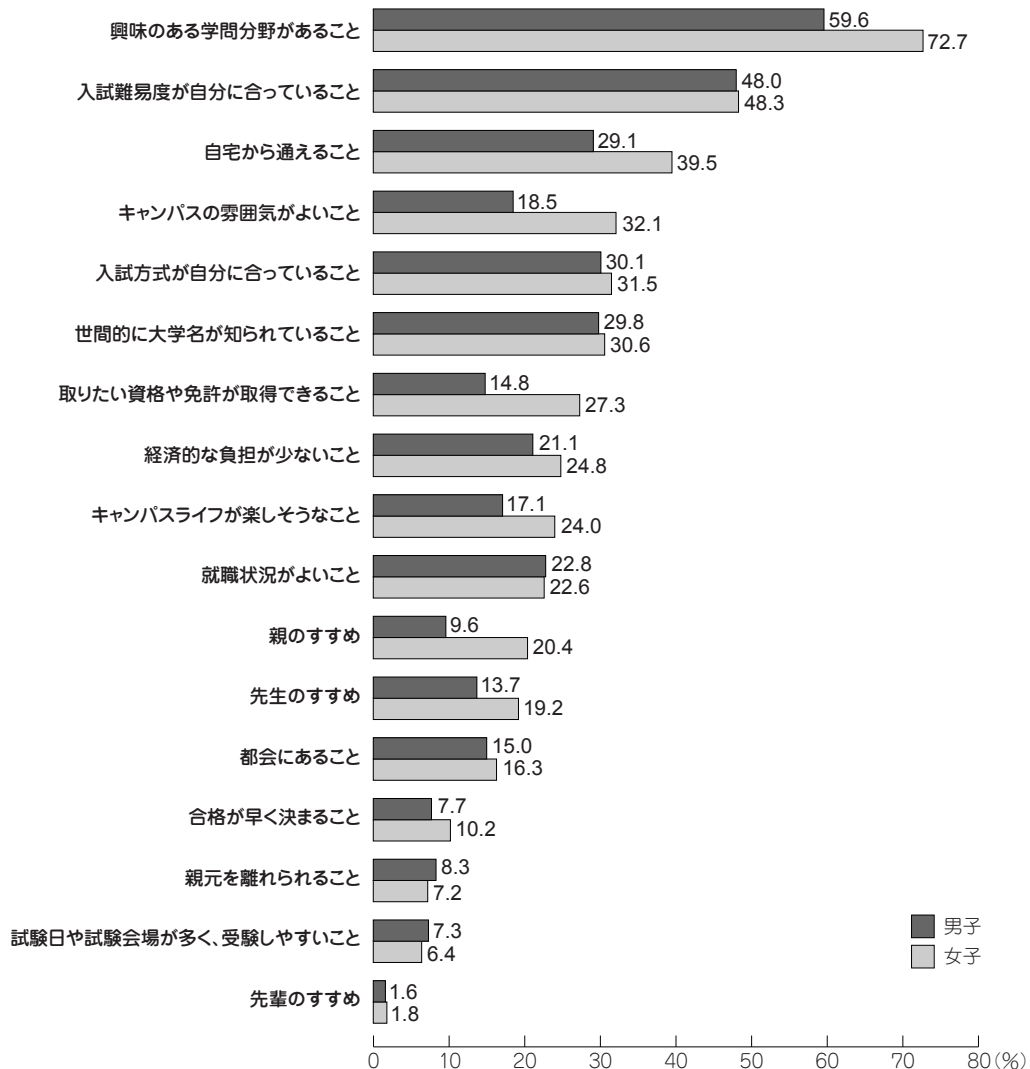
注1) 複数回答。  
 注2) 「上記にあてはまるものはない」は省略した。  
 注3) サンプル数は4,070名。

図1-2-11 受験する大学・学部を決める際に重視した点：先生のすすめ（入試方式別）



注1) 複数回答。  
 注2) 「推薦・AO入試」には、「推薦入試」「附属高校推薦」「AO入試」を含む。  
 注3) 入試方式の「帰国生入試」「編入学」「その他」は省略した。  
 注4) ( )内はサンプル数。

図1-2-12 受験する大学・学部を決める際に重視した点（性別）



注1) 複数回答。

注2) 「上記にあてはまるものはない」は省略した。

注3) サンプル数は男子2,439名、女子1,631名。

つづいて、学部系統別に、受験する大学・学部を決める際に重視した点をみていこう。表1-2-4は、学部系統別に「受験する大学・学部を決める際に重視した点」を<入試><大学生活><就職><他者のすすめ>の категорияに分類し、それぞれの分類内での全体平均の高い順に並べている。

「人文科学」は、<大学生活>、特に「興味のある学問分野があること」(73.1%)、「自宅から通えること」(38.2%)、「キャンパスの雰囲気が

よいこと」(32.1%)、「キャンパスライフが楽しそうなこと」(26.6%)といった点で、全体平均よりも5ポイント以上高い結果であった。しかし、同じ文系学部系統でも、「社会科学」は、「世間的に大学名が知られていること」(37.8%)のみが全体平均よりも5ポイント以上高い結果となった。

「理工」は、「入試難易度が自分に合っていること」(53.3%)や「就職状況がよいこと」(27.9%)が全体平均よりも5ポイント以上高い

表1-2-4 受験する大学・学部を決める際に重視した点（全体・学部系統別）

(%)

	全体 (4,070)	人文科学 (837)	社会科学 (1,553)	理工 (980)	農水産 (125)	保健その他 (283)	教育 (143)	その他 (149)	
〈入試〉	入試難易度が自分に合っていること	48.1	47.8	47.1	53.3	43.2	44.5	45.5	39.6
	入試方式が自分に合っていること	30.7	31.8	32.1	27.8	29.6	31.8	29.4	28.9
	合格が早く決まること	8.7	10.8	9.3	7.3	5.6	5.7	7.0	10.1
	試験日や試験会場が多く、受験しやすいこと	6.9	6.3	8.8	4.9	7.2	6.4	7.0	4.7
〈大学生活〉	興味のある学問分野があること	64.8	73.1	54.7	67.1	75.2	72.8	69.9	79.2
	自宅から通えること	33.2	38.2	36.0	28.7	24.0	26.1	30.8	30.2
	世間的に大学名が知られていること	30.1	30.7	37.8	24.8	20.0	15.5	22.4	25.5
	キャンパスの雰囲気がよいこと	23.9	32.1	25.6	17.6	17.6	14.8	22.4	26.2
	経済的な負担が少ないこと	22.6	19.7	19.5	26.2	28.8	27.2	35.0	21.5
	キャンパスライフが楽しそうなこと	19.9	26.6	21.1	14.6	15.2	12.7	21.7	20.1
	都会にあること	15.5	18.2	19.3	11.4	8.8	11.3	6.3	10.7
	親元を離れられること	7.8	7.8	6.8	9.1	8.0	9.5	7.7	8.1
〈就職〉	就職状況がよいこと	22.7	18.0	25.2	27.9	6.4	19.8	13.3	17.4
	取りたい資格や免許が取得できること	19.8	18.6	12.6	10.9	18.4	67.1	60.8	32.2
〈他者のすすめ〉	先生のすすめ	15.9	18.2	15.6	15.7	12.8	11.0	15.4	19.5
	親のすすめ	14.0	14.9	13.7	11.8	9.6	19.8	18.2	14.1
	先輩のすすめ	1.7	1.9	1.8	1.6	0.8	1.1	0.7	2.0

注1) 複数回答。

注2) 「上記にあてはまるものはない」は省略した。

注3) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。

注4) ≡は全体よりも5ポイント以上、≡は10ポイント以上低いものを示す。

注5) ( )内はサンプル数。

結果を示したものの、学部系統別にみたなかで、唯一、〈大学生活〉のいずれの項目も、全体平均より顕著に高い結果が示されていない。これに対し、同じ理系学部系統でも、「農水産」は、「興味のある学問分野があること」(75.2%)や「経済的な負担が少ないこと」(28.8%)など、〈大学生活〉の項目のみが全体平均よりも顕著に高い結果となっていた。

「保健その他」「教育」「その他」は、「取りたい資格や免許が取得できること」(それぞれ67.1%、

60.8%、32.2%)が全体平均よりも10ポイント以上高い。ほかにも、「興味のある学問分野があること」(それぞれ72.8%、69.9%、79.2%)が全体平均よりも顕著に高い結果となった。また、「教育」では、「経済的な負担が少ないこと」(35.0%)が全体平均よりも10ポイント以上、「保健その他」では「親のすすめ」(19.8%)が全体平均よりも5ポイント以上高い結果が示された。

## 大学受験のときの入試方法

大学受験時には、「一般入試」(70.2%)、「センター入試」(58.5%)を過半数以上に及ぶ大学生が経験していた。その一方、「推薦入試」(26.8%)、「AO入試」(8.4%)といった、特別選抜入試を経験した大学生も少なからずみられた。「現在の大学・学部を受験した方法」に目を向けると、「一般入試」(56.4%)が最も多く、次いで「推薦入試」「センター入試」「AO入試」の順であった。こうした傾向には性別による差異がみられた。

### Q

●大学受験のときの入試方法についてお聞かせください。

- 1) あなたは大学受験をしたとき、全体でどのような入試方法を経験しましたか。あてはまるものすべてについてお選びください。
- 2) 現在の大学・学部にはどの入試方法で受験しましたか。あてはまるもの1つをお選びください。なお、現在の学部・学科が国公立大学で、センター試験と一般入試(小論文、面接含む)をともに受験した場合は「一般入試」とお答えください。

ここまで、「大学受験対策」や「受験校選択」についてみてきた。では、こうした結果として、現在の大学生は、どのような方法で大学を受験し、現在の大学・学部合格したのだろうか。ここでは、「大学受験方法」について、「現在の大学・学部を受験した際の入試方法」のみならず、「大学受験時に経験したすべての入試方法」についてもとらえていく。「現在の大学・学部に向けての受験対策しか行わず、他の大学・学部を併願せずに受験した」という者は、決して多くはないだろう。そこで、ここでは「大学受験時に経験したすべての入試方法」についても目を向けていくこととした。

まずは、「大学受験時に経験した入試方法」についてみていこう。図1-2-13は、受験校全体に関しての入試方法について複数回答でたずねた結果を示したグラフである。「一般入試」(70.2%)や「センター入試」(58.5%)は、過半数に及ぶ多くの大学生が経験していた。また、「推薦入試」(26.8%)や「AO入試」(8.4%)を経験した大学生も少なからずみられ、こうした入試方法は、もはや特別なものではないことがうかがえる。

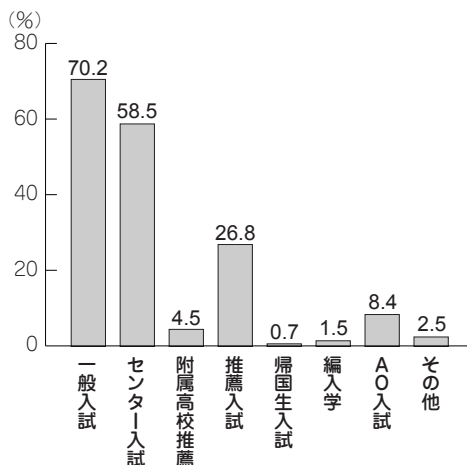
つづいて、「現在の大学・学部を受験した方法」についてみていこう。図1-2-14は、現在の大学・学部を受験した方法を示したグラフである。「一般入試」(56.4%)が最も多く、次いで「推薦入試」(20.1%)、「センター入試」

(11.9%)、「AO入試」(4.3%)の順となっている。この結果より、「推薦入試」や「AO入試」を受験することのみならず、こうした方法で大学に入学することも、もはや特別なものではないといえよう。

こうした傾向に性差はあるのだろうか。図1-2-15は、「大学受験方法」について、受験校全体に関して、性別に示したグラフである(複数回答)。男子は女子に比べ、「一般入試」(男子72.0%>女子67.4%)を経験した者が顕著に多い傾向が示された。これに対し、女子は男子に比べ、「推薦入試」(女子31.2%>男子23.8%、以下同)や「AO入試」(9.7%>7.5%)を経験した者が多い傾向が示された。

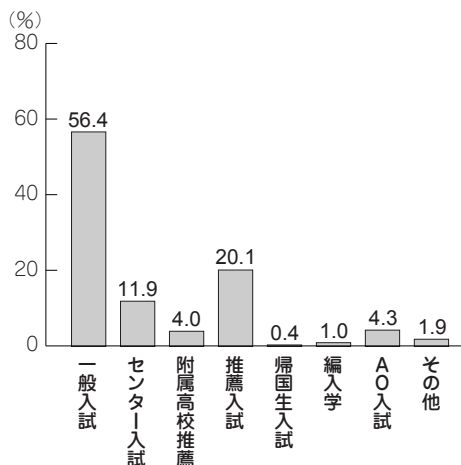
つづいて、図1-2-16は、「大学受験方法」について、現在の大学・学部を受験した入試方法を性別に示したグラフである。男子は女子に比べ、「一般入試」(男子58.0%>女子53.9%、以下同)や「センター入試」(12.7%>10.8%)によって、現在の大学・学部に入学者が多い傾向が示された。これに対し、女子は男子に比べ、「推薦入試」(女子23.1%>男子18.0%)によって、現在の大学・学部に入学者が多い傾向が示された。これらの結果より、「大学受験時に経験した入試方法」「現在の大学・学部を受験した方法」とともに性別による傾向があるものと思われる。

図1-2-13 大学受験方法：受験校全体（全体）



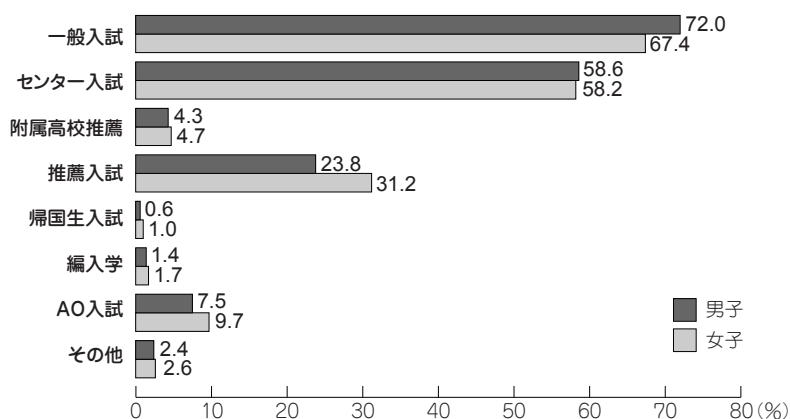
注1) 複数回答。  
注2) サンプル数は4,070名。

図1-2-14 大学受験方法：現在の大学・学部（全体）



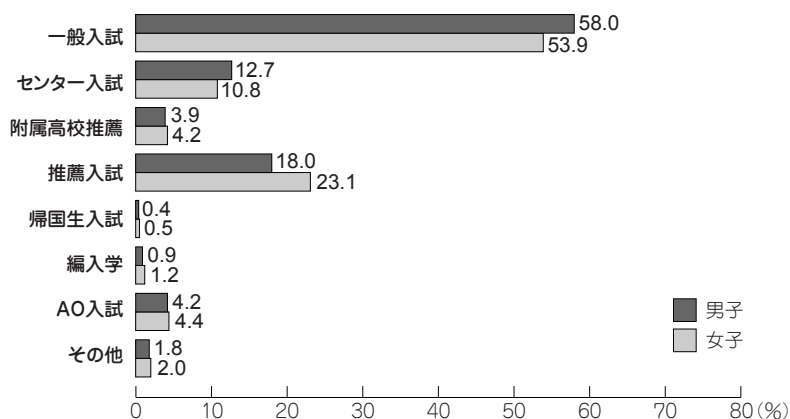
注) サンプル数は4,070名。

図1-2-15 大学受験方法：受験校全体（性別）



注1) 複数回答。  
注2) サンプル数は男子2,439名、女子1,631名。

図1-2-16 大学受験方法：現在の大学・学部（性別）



注) サンプル数は男子2,439名、女子1,631名。

## 進学先の大学・学部決定時期

「現在の大学・学部に合格した時期」は、国公立大学や多くの私立大学の一般選抜入試の結果が明らかになる「2月」(33.3%)や「3月」(35.5%)と回答した者が多数を占めていた。しかしその一方、一般選抜入試が実施される前の時期である、高校3年生の秋期(9月～12月)の段階で、現在の大学・学部への合格がすでに決定していた大学生も、全体の4分の1以上に及んでいた。こうした傾向には、文系・理系といった学部系統によって差異がみられた。

### Q

現在の大学・学部合格したのは、何月頃ですか。

では現在の大学生は、いつ頃、進学先の大学・学部を決定したのだろうか。本節の締めくくりとして、ここでは、「現在の大学・学部合格した時期」に着目してとらえていくこととする。

図1-2-17は、「現在の大学・学部合格した時期」を示したグラフである。国公立大学や多くの私立大学の一般選抜入試の結果が明らかになるのは、「2月」あるいは「3月」である。図1-2-17からも、「現在の大学・学部合格した時期」について、「2月」(33.3%)、「3月」(35.5%)と回答した者が多数を占めていることが示された。

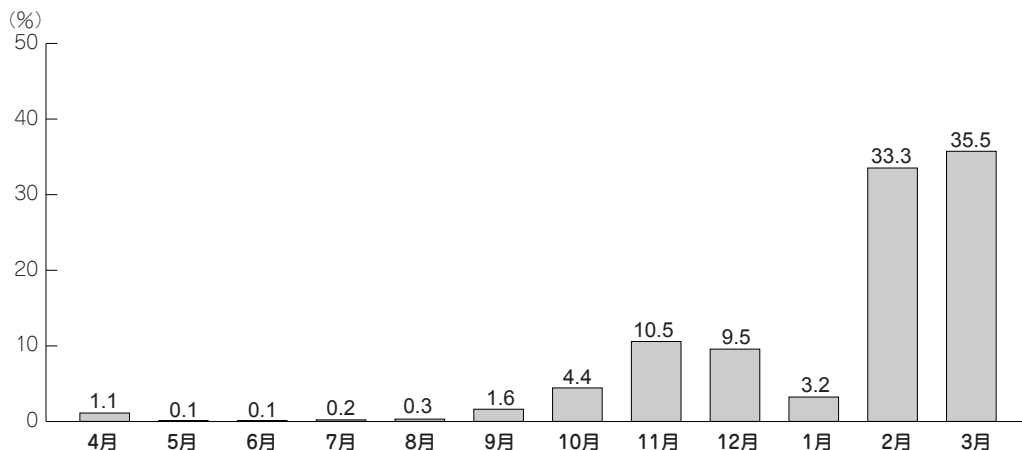
しかしその一方、一般選抜入試が実施される前の時期に、現在の大学・学部への合格がすでに決定していた大学生も少なからずみられる。なかでも目立つのは、「11月」(10.5%)、「12月」(9.5%)など、高校3年生の秋期後半にあたる時期であり、9月から12月に現在の大学・学部への合格がすでに決定していた大学生は、全体の4分の1以上(26.0%)にも及んでいる。彼らは、高校の系列大学への内部進学や、推薦入試・AO入試といった特別選抜入試により、現在の大学・学部への進学が決定した者と思われる。彼らが大学に入学する4月までの期間に、いかなる過ごし方をしているのか、大学側も注意

深くみていく必要があるだろう。

では、「現在の大学・学部合格した時期」は、入学後の学部系統によって異なるのだろうか。表1-2-5は、「現在の大学・学部合格した時期」について、学部系統別に示した表である。学部系統別に違いが顕著に示されたのは、国公立大学や一部の私立大学の一般選抜入試の結果が明らかになる「3月」であった。「教育」(59.4%)や「農水産」(51.2%)では、「3月」と回答した者が全体平均よりも10ポイント以上高く、それぞれの学部系統の過半数の大学生が該当している。ほかにも「理工」(43.6%)や「保健その他」(43.1%)は全体平均よりも5ポイント以上高く、かねてより指摘されるように、理系の学部系統を希望する受験生は、国公立志向が強い傾向にあると思われる。

他方、高校3年生の秋期にあたる「9月」から「12月」と回答した者が多いのは、「人文科学」(「9月」1.6%、「10月」5.3%、「11月」14.2%、「12月」10.8%)や「社会科学」(「9月」1.3%、「10月」4.6%、「11月」9.7%、「12月」10.7%)など、文系の学部系統で目立つ。また、生活科学・芸術・総合などを含む「その他」は、「11月」に決定した者が、全体平均よりも5ポイント以上高く、16.8%に及んでいた。

図1-2-17 現在の大学・学部合格した時期（全体）



注) サンプル数は4,070名。

表1-2-5 現在の大学・学部合格した時期（全体・学部系統別）

	全体 (4,070)	人文科学 (837)	社会科学 (1,553)	理工 (980)	農水産 (125)	保健その他 (283)	教育 (143)	その他 (149)
4月	1.1	1.0	0.8	1.4	0.8	0.7	2.8	2.0
5月	0.1	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
6月	0.1	0.2	0.1	0.1	0.0	0.4	0.0	0.0
7月	0.2	0.1	0.1	0.2	1.6	0.0	0.7	0.0
8月	0.3	0.7	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0	1.3
9月	1.6	1.6	1.3	2.2	0.8	1.1	0.7	2.7
10月	4.4	5.3	4.6	4.6	1.6	1.8	3.5	4.7
11月	10.5	14.2	9.7	8.7	7.2	11.7	<u>4.9</u>	<u>16.8</u>
12月	9.5	10.8	10.7	7.7	8.8	6.4	9.1	10.1
1月	3.2	2.7	4.1	3.1	0.8	2.1	2.8	2.0
2月	33.3	35.8	37.8	<u>28.0</u>	<u>27.2</u>	32.9	<u>16.1</u>	30.9
3月	35.5	<u>27.6</u>	<u>30.5</u>	<u>43.6</u>	<u>51.2</u>	<u>43.1</u>	<u>59.4</u>	<u>29.5</u>

注1) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。

注2)     は全体よりも5ポイント以上、    は10ポイント以上低いものを示す。

注3) ( )内はサンプル数。